

平成25年度第4回 読書のまち八王子推進連絡会議 会議録

日時 平成26年1月14日（火） 午後6時00分～7時17分

場所 八王子市中央図書館 3階 会議室

報告事項 (1) 第三次読書のまち八王子推進計画について

出席者氏名

委員	三浦 眞一	山崎 久道	小平 有紀	三塚 久美子
	鈴木 康弘	谷口 葉子	中村 和也	森岡 庸浩
	志田原 節子	豊田 亘男	田中 勉	石川 和弘

欠席委員 吉澤 淳 斉藤 和巳 三上 浩一 小澤 篤子

事務局 豊田中央図書館長 中村生涯学習センター図書館長
村田南大沢図書館長 福島川口図書館長
中央図書館 一杉主査
生涯学習センター図書館 高橋主査
川口図書館 平井主査
南大沢図書館 新井主査 嶋崎主査

傍聴人 0 人

会議録署名委員 志田原 節子

開会

事務局（村田南大沢図書館長）～本日は、お忙しいところ、平成25年度第4回読書のまち八王子推進連絡会議にご出席いただきましてありがとうございます。それでは、これより読書のまち八王子推進連絡会議の進行を三浦会長にお願いします。よろしくお願いたします。

三浦会長～本日の会議につきましては、過半数の委員さんのご出席をいただいておりますので有効に成立していることをご報告申し上げます。なお、吉澤委員、斉藤委員、三上委員、小澤委員は所要のため欠席とのご連絡がありました。石川委員はちょっと遅れるとの連絡がありました。

本日、傍聴人は0人です。

会議録の署名委員は、志田原委員にお願いいたします。

(志田原委員の了承があった)

三浦会長～それでは、会議資料の確認を事務局よりお願いします。

事務局（新井南大沢図書館主査）～先日、11日にお送りいたしました、まだ届いていなかったり、今日届いたということでお伺いしましたので、大変申し訳ございません。いま、お持ちでない方はいらっしゃいますでしょうか。

(資料の配布が行われた)

それでは、資料がですね、お送りいたしましたのが、「資料の送付について」というA4の紙とですね、右上に、推進連絡会議資料①、同じく推進連絡会議資料②、推進連絡会議資料③、の4種類でございます。そして、本日お配りしました、会議の次第と、図書館「らいぶらりい」、以上が資料になります。よろしくお願いします。

三浦会長～資料の確認は、よろしいでしょうか。

それでは議題の1でございます。「第三次読書のまち八王子推進計画について」事務局よりご説明をお願いします。

事務局（高橋生涯学習センター図書館主査）～生涯読書活動推進計画部会における課題について整理をいたしましたので、ご説明をさせていただきます。こちらの部会では3回ほど作業部会を開催し、読書のまち八王子推進計画の一つである生涯読書活動推進計画の第三次計画策定について、課題整理を行いました。子ども部会もあることから、こちらの部会では大学生以上を対象とした検討を進めさせていただきました。まず、課題整理を行った項目ですが、(1)生涯読書活動推進計画の第三次計画の柱となる事業について検討いたしました。まず、第1として、第二次生涯読書活動推進計画の中でも、「地区図書室の図書館分室化」というのがございましたが、第三次計画でも分室化の継続はしておきますが、「地区図書室の充実化が必要である」という意見が出ました。その中で出された意見として、地区図書室のサービス向上にあたっては開館日数や開館時間を拡大するなどの、地域読書環境充実に賛同してくれる住民協議会の協力を得て行うことが必要と考えられます。その場合、協力してくれる地区図書室については、交換便の回数を増やしたり、インターネット予約で受取り場所を指定できる等など、利点を提示するとともに地区図書室の、図書館からの図書購入費を増額したりとか、図書館、ふれあい財団側の支援の姿勢を明確にすることが必要であると考えております。また、図書室については、PRが不足しているのではないかという意見が多く出ました。図書館や、地区図書室についてのPRをし、地域の方の利用増を

めざしたいと考えております。具体的には、年2回の市民センターの広報に図書室の新刊書やおはなし会、イベント情報、また、そういったものを盛り込んで、お知らせしてはどうかという話も出ました。ただ、いつも4月とかにそういった情報が、いろんなところから来ますので、時季を見た方がいいのではないかと、5月、6月ごろにずらして読み聞かせのリストを配布してはどうかという意見も出ました。また、そういったものについては、ふれあい財団のホームページや、図書館のホームページを活用して、地区図書室のPRを強化したいと考えております。そのほかにもいろいろといくつか出ましたが、地区図書室の連絡会議が年1回で事務連絡の場となっていることから、開催回数を増やしたり、地区図書室の充実化を話し合う場にしてはどうかと考えております。ボランティア、もしくは市民たちの市民力のアップを考えていきたいと思っております。

次に、読書環境の充実。こちらはサービスポイントの充実が必要ではないかと思えます。地区図書室以外にもこういったものがあるといいなということで、出された意見としては、駅やコンビニなどに返却ポストを設置してはどうかと。返却ポストについてはいろいろと要望があると思えますが、駅とかコンビニなど身近にあるもの、もしくは郵便局とか、地域のところにあるものについて設置をしてはどうかと考えております。また、施設が整い、地域開放を行う学校図書館というの、図書館ネットワークの一部と位置付けて、予約の本を受け取ったりとか、そういうことができないかこちらの方でも検討しましたが、学校につきましては子ども部会の方へ任せることといたしました。次に、電子書籍・デジタルアーカイブについて。こちらの方も二次計画の中で出ておりますが、今後の流れを考えますと、電子書籍やデジタルアーカイブの導入というのは必要なアイテムになると考えております。電子書籍は、文字の拡大や読み上げソフトの活用など、副次的な利用価値があり、図書館が目指すユニバーサルデザイン実現の一つのツールと考えております。課題は「費用」と「運営方法」にあります。現在も電子書籍をやっている図書館等ありますが、運営方法などには課題がまだいくつかあると考えております。今後もしろいろな情報をもとにそちらの方の検討を進めていきたいと思っております。また、行政資料や郷土資料など劣化してしまうものについて保存などが難しいものについては、デジタルアーカイブ化は必要なものと考えられます。いろいろと最近では新聞などにもでておりますし、電子書籍にした方が魅力的であるのではないかと考えております。こちらの方については、ぜひともこちらの方でも議論を進めていただきたいと考えております。つぎに、図書

館を利用しないで読書を楽しむ市民への支援を考えております。例えば、返却ポストを書店に置くことで、書店しか利用しない市民に図書館を利用してもらえるように促したいと考えます。書店の協力を仰ぐ際には書店と図書館の相互にメリットがあるような工夫をしたいと考えております。例として、図書館で人気のある多リク本の情報を伝えたり、図書館で人気のある本を図書館・書店で掲示して、相互でアピールを実施したいと考えております。次に、本が好きで、たくさん本を読んでいる方も多いと思いますが、読書会の開催や、同じように時代小説や推理小説など、そういったものが好きな人たちのグループを集めて、読書によってつながる出会いの場としたいと考えております。次に、最も図書館を使えない世代と考えるのが現役世代ではないかという意見が出ました。図書館を使ってもらうには、それぞれの世代にあったサービスを検討していく必要があると考えます。特に、時間にとらわれないインターネットからの情報発信などが、こういった世代には有効的ではないかということで、ホームページの相互リンクや、トップなど、目立つ場所にリンクを貼るなどの工夫を今後考えていったらどうかという意見がありました。また、現役世代は仕事で使う資料などもかなりあると思うのですが、そういったものについては、電子書籍、もしくはインターネットからの資料というものが、時間にとらわれないので、そういったものを、これからやっていくことができないか。それから、レファレンスということが、調べ物に、図書館は使えるのですよということで、レファレンスのネットでの受け付けも必要と考えられますが、ネットでやる場合には、気軽さもあって、いろいろな問題点もあると考えております。そういったことも踏まえて今後の検討にしたいと考えます。ただし、その場合には、図書館側でもレベルアップとスピード感がやはり必須になってくると思いますので、そちらの方の強化をどうするかも今後の検討にしたいと思います。次に、既存施策とのタイアップということで、こちらの方は、例えば生涯学習フェスティバルとか、図書館の実施している事業ですね、生涯学習センターなどでも講座をかなりやっておりますが、そちらとタイアップして、本の紹介をしたり、図書館の方から出向いて、そういった宣伝をすることをしたらどうかと考えております。また、先日、成人式が行われましたけれども、成人式の時に新成人におすすめのリストとか、そういったものを配布する。もしくは八王子市内の、そういった方たちから先生、恩師などからの言葉を添えるなどして、そういったリストを配ってはどうかという意見がありました。

次に、大学図書館を活用できないかということでございます。八王子市内には大学図書館が、かなりの数ありますが、最近では個人貸し出しを行っ

ている大学もかなりありますが、そのことを知らない市民もかなり多いと思います。市民の読書環境を充実するためにも、サービスポイントとして取り込み、市民への周知を図りたいと考えております。ただ、大学図書館の方が、専門性が高いので、反対に、調べ物をするという方たちには市立図書館とすみわけを行い、用途に応じた利用案内をしたいと考えております。ただ、デメリットとしては大学図書館では、やはり普通の人から考えると心理的に敷居が高いのではないかと。また、地域立地条件を見ますと、ちょっと不便なところも多いものですから、駐車場が使えない大学もありまして、行きにくさもありますので、その辺のところをどういうふうにして、利用していただくかということも考えていきたいと思っております。大学図書館とも、相互にメリットのある関係を今後、築いていって、うまく協力をしていきたいなというふうに考えております。最後ですが、このところで地区図書室の分室化を進めるにあたって地域性を考慮した図書館の配置を考えていきたいと思っております。今まで、八王子市の図書館の配置計画の方が、検討する場所がなかったもので、この部会の方では、今後、図書館の配置計画を考えて、サービスの拡大を進めていきたいと思っております。これで終わりにさせていただきます。

三浦会長～それでは続きまして、子ども読書につきましてお願いします。

事務局（一杉中央図書館主査）～子どもの読書活動推進計画部会での経過報告をさせていただきます。こちらの子ども部会ですが、前回の会議でもお知らせしましたが、市全体で、子どもの読書活動の推進を図っていくため、図書館部のほか、学校教育部、子ども家庭部、医療保険部といった子ども関連所管からのメンバーで構成されており、これまで3回の会議を開催し、課題整理を行いました。子どもの読書活動推進計画は、ゼロ歳から、おおむね18歳、高校生までを対象としています。

お配りした、子ども家庭読書推進部会における議論要旨をご覧いただきたいと思っております。3回の会議の中で、活発な意見交換が行われましたが、国の「第三次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」の内容なども踏まえまして、「地域・家庭での子ども読書活動の推進について」と、「学校図書館の充実と読書活動の推進」、「中高生の読書活動推進」と、「その他」の項目と、大きく項目わけをいたしまして、項目ごとに報告させていただきます。まず、「地域・家庭での子ども読書活動推進について」ですが、一つ目に「ボランティア活動の促進、育成とコーディネート必要性」を上げました

ボランティア活動の促進につきましては国の第三次計画の中でも新たに項目建てされていますが、部会の中でも特に八王子のように市域の広い

読書活動推進にはボランティア活動の支援とコーディネートが重要なものと考えました。二つ目に、「啓発活動・地域における関連所管の連携強化」、三つ目に「地区図書室での児童サービスの充実」を主な内容としました。具体的な意見につきましては、資料をご覧くださいと思いますが、これらは、子どもが自主的な読書習慣を身に付けていくためには身近な大人が読書活動に理解と関心を持つことが重要であり、市全体で読書活動を推進する機運を一層高めていく必要が大切であるという思いでまとめました。子ども読書週間を含め、関係機関や関係団体の連携を図りながら、広く啓発活動も行っていく必要が重要であるとの意見が多く出ました。次に、「学校図書館の充実と読書活動の推進」についてですが、一つ目には、「学校サポート事業の充実」、大きく二つ目には、「図書館と学校図書館の連携強化」、三つ目に「啓発活動・地域における関連所管の連携強化」をあげました。学校図書館の今後の運営や、サポート事業、図書館との連携、システムの在り方などにつきましては、現在、八王子市学校図書館活用協議会と、その下部組織の研究会で、現状の把握や課題の整理を行っています。こちらの読書のまち八王子推進連絡会議の中でも、ぜひ、議論していただきたいと思います。また、学校での読書活動の充実を図るためには、司書教諭だけでなく全職員への学校図書館活用の意識向上や、地域全体で連携し、学校図書館の利用拡大を図っていくことが大切であるとの見解でまとまりました。次に、三番目の大きな項目といたしまして、「中高生の読書活動推進」についてです。こちらは国の第三次計画の中でも、引き継がれた大きな課題として、中高生の不読率の問題が上がっていました。部会の中でも第三次計画の中に盛り込んでいく課題として活発に議論を行いました。資料のような意見があがりましたが、部活動や受験勉強などで読書時間をとるのが難しい中高生にどのようにアプローチしていくかこちらの推進連絡会議の中でもぜひ議論していただきたいと思っております。

「その他」の項目といたしましては、「図書館ホームページの子どものページの充実」、こちらは図書館のお知らせだけでなく、読書全般の関連情報を発信していくものや、保護者向けのページを作成。市内の地域文庫活動なども紹介して、啓発を図っていけるようなものにしていく必要があると考えております。もう一つの項目としましては、「特別な支援を必要とする児童・生徒への読書支援」ということで、布の絵本、触る絵本、児童向け録音図書の整備や、病院への団体貸出しの実施なども部会の意見としては上がりました。以上になります。

三浦会長～委員さんからいただいたご意見の概要については。

事務局（村田南大沢図書館長）～それは、皆さんのご意見を頂いたのをまとめたことなので、それらの委員さんの意見を踏まえて、二つの部会では議論させていただきました。

三浦会長～皆さんの、いただきましたご意見を資料③としまして、こういった形でまとめていただいておりますのでこちらをご参考にしていただければと思います。これを進めた形で、次回の会合の時にもまたご議論いただくこととなりますので、よろしく願いをいたします。それでは、二つございますので、大きく分けて、生涯読書活動推進計画と、子ども読書活動推進計画ということでございますので、感じられたこと、ご意見などありましたらいただきたいというふうに思いますし、また、本日意見をいただきました、また作業部会でも検討していただきます内容を同時に進めております。生涯学習審議会へも意見提出ということを考えておりますので、ご了解をいただきたいと思います。それでは、まず、資料①の方ですね。

「第三次読書のまち八王子推進計画、生涯読書活動推進計画部会における課題」ということですが、テーマの項目が多いということがございますので、2の(1)の①、②、そこくらいまでで、皆さんからご意見をたまわりたいと思いますので、よろしく願いいたします。ご質問等々ございましたら、お出しいただきたいと思います。

事務局（村田南大沢図書館長）～一点、事務局からの報告ですが、平成27年に、八王子のみなみ野市民センターにある地区図書室が図書館分室化になるという計画が決まっております。第二次読書のまち八王子推進計画においても、分室化を数か所予定はしてはいたのですが、なかなか予算も厳しい状況の中で、やっと27年度に一か所分室化されることが決まっております。

三浦会長～それは、人口集中度が高いということですか。

事務局（村田南大沢図書館長）～実績として、市内17か所の地区図書室の中で一番利用率が高いといったことと、施設的にすぐに分室化に移行できるというふうなことから、みなみ野駅前にある地区図書室を分室化するという計画になります。

山崎委員～大変、資料をよくまとめていただいて、非常に議論しやすい形になっていると思います。まず最初のところ、会長のご指定になられた部分ですが、図書館、地区図書館、地区図書室、あるいは分館、それぞれ活動するというので、サービスを向上させることが非常に大事だと思うんですが、八王子全体の図書館システムとして、何ができるかということが非常に大事だと思います。この資料の、いろんな場所にありますけど、やはり、サービスポイントという考え方になりますと、どこのサービスポイントに行っても八王子市の図書館全体のサービスを受けることができるという

形をとるということは非常に大事だと思うのです。特に、市域が非常に広いというふうに承知しておりますので、あまり、その地区図書室なり、個々の図書館で完結するサービスということを考えますとどうしても規模の問題とか人員の問題とか、予算の問題で、限りがあると思います。やはり、地区の人たち、皆さんに対して、必ずしも満足のいくサービスができないのではないかと。しかしながら、八王子市全体として考えれば、非常に大きな規模でありますし、力を持っております。だから、ブックポストの問題もそうなのですが、地区図書室に行ったら、これだけのサービスが全体が受けられるんだよという、メニューをうまく示していただいて、そこから、八王子市内の図書室あるいは東京都の都立の図書館、あるいは国会図書館にまで資料の請求ができるわけです。そういうふうなことをぜひやっていただくと、こういう構想にもう一つ充実したものが出てくるのではないかと思います。

三浦会長～おそらく、現在ある施設を総合的に市民の方にわかっていただくような形を考える必要があるのだと思うのですが、自分の身近なところの、地区図書室だとか、そういうことはご存じなのだろうと思いますが、それ以外のソフトウェアも含めて、どういうふうに使えるのですよということは、市民の方たちが、現状ではわかってらっしゃるのでしょうか。多分お分かりでない方が大勢いらっしゃるのだと思うのです。それを総合的にお示しするという方法があるといいのかなと思うのですが、そのへん何か意見がございましたら、いただければと思います。

山崎委員～どうしても、自分の地元の近くの図書室にないとききらめてしまって、私なんかできえ、そういうことがあるんですね。でも、そこで、たとえば中央図書館から取り寄せてくださいとか、いろんなふうに、自分の資料要求を展開できるんですけど、問題はそこを住民の方々が知っているかどうかということと、図書館が、そこそこに頼みやすいかどうかという、窓口のサービス性の問題もあるんだと思います。図書館のサービスというのは知られていない部分がすごく多いと思います。随分いいサービスをやっているんだけど、みんな知らない。知らないから、結局ここで我慢して帰ってしまうということになっているんじゃないかと思います。

三浦会長～ということは、体系的なものをひとつピシッと作っておかないといけないということでしょう。

山崎委員～それがわかるようなものができれば一番いいんだと思います。

豊田委員～うちの町会なんか見ると、台町市民センターなんですけれど、あそこにも図書館があるんですよ。皆さん本当に知らないですね。あそこに行けばいろいろな習い事をするだとか、そういうのは知っているんですけど

ど、図書室があつて、本が借りられる。というのは、しない人が多いですね。だから、我々町会の中でも努力しなければいけないんですけど、行けば本を借りられるんだよと、町会の回覧でも何でもいいんで。

三浦会長～体系的な部分から、タイトな部分というんですか、住民に密着した部分、市民に密着している部分まで、の体系化は必要であろうというような気がしますね。

鈴木委員～②の返却ポストのところなんですけれども、今、八王子市で返却できるのは図書館と地区図書室くらいなんですけど、よく知らなくて申し訳ない。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）～あともう一つ、八王子駅南口の総合事務所の中でも、返すことができます。それ以外の事務所は、すみません、今のところはまだ、対象にはなっていません。

鈴木委員～と、言いますのは、地下鉄の駅に返却ポストがあるところがあつて、そこが、悪いことには、便利だなという感覚をこの冬に持ったものですか、JRの駅ならJRの駅で、JRとの関係があるので、置けるか置けないかはかなり大きい課題だと思うんですけど、人が集まるところで返却できるシステムができると、また、借りるということも、ペースが上がるのかなと強く思いましたので、実現可能であれば、その方向へシフトしていただければなと思います。

三浦会長～もう一点、「学校図書館を図書館ネットワークの一部として位置づけ」という文章が入っておりますけれど、その辺については、なにかお考えがございますでしょうか。お父さん、お母さんの立場からすると、そういうふうに入っててくれた方がありがたいというところがあるんでしょうか。

中村委員～学校の中の、不便な場所にあつたりすると、例えば、3階とか4階とかになると、返しにくいみたいのがある学校も。その位置も問題ですよ。地区の図書室として、何か返却場所として考えるのだったら、1階にあればベストなんだろうが、なかなかそういういい場所がない学校がほとんどだと思ふんで。

三浦会長～これは、図書館ホームページ等で予約した本の受取場所としてできないかということが言ってあれば、今お話があつたように、逆の方向の、返却するのは、学校は使えないのというのは、受け取るのは受け取れるのだけれど、返却はできないのということに当然なるのかもしれませんが、それと、これは学校教育部との連携等の問題もあるんでしょうし、なかなか、現実には難しいのだらうと思いますけれど、ご要望があれば、はっきり出しておいていただいた方がありがたいと思います。できる、できないは別にしまして。

山崎委員～図書館運営の立場から言いますと物流の問題なんですね。返したものはしばらくそこへ置いておけばいいのではなくて、図書館が引き取りに来て、できるだけ早く書架に戻さなければ、図書館のサービスが、そこで、その本についてはないのと一緒になってしまいますから。だから、どれくらいの頻度で回収に行くかというのはすごく難しい問題で、それは費用の問題とかそういう問題もあると思うんですが、それは図書館の中でやる必要があるので、図書館という場合は、できるだけブックポストを置きたがらないという、一方ではありまして、例えば私どもの大学ではブックポストがあるんですが、図書館の開館中はブックポストへ返さないでくださいと。これは随分勝手な言いぐさでありまして、いいとは思いませんけれど、図書館員の立場になればわからないわけではないんです。つまり、窓口で返してくれれば、そこからすぐに書架へ持って行って返却の手続きができるけれど、ブックポストだったら、誰かがとりに行ってやらなければならない。それだけの手数を図書館の中から割くのは大変だという部分もあるんだと思うんですね。これはちょっと八王子の図書館の方は申し上げにくいかなと思って私が代りに言いましたけれど、多分、それとの絡みの問題で、結構、置いたらしょっちゅう取りに行かないと意味がないですね。一週間に一回取ったらじゃ仕様がなないんです。

事務局（中村生涯学習センター図書館長）～八王子の、南口総合事務所の現状なんですけど、週に2回ほどしか回収に行けないんです。ですから、よく、生涯学習センター図書館、北口にありますので、よく南口のポストに入れられて、そのまま来られる方がいらっしゃるんです。だったら、直接図書館の方に、今、先生が言われたように、持ってきてくれればいいんですけど、あそこに入れたからといわれて、で、そこが今お話ししたように、週に2回しか回収しませんので、3日ほどその中であたためるような形になりますので、当然、返した、返さない、というような、すぐなぜ回収しないんだ、というようなことを言われるということは事実です。そういう点では、図書館としては、確かにサービスポイントというか、返却ポストをたくさんいろんなところに置くというのは大事だと思っているんですけど、物流で回収してくるといって、要するにリアルタイムに近い形で処理ができるというふうにしてくると、やはり、物とお金がかかってくるというのが現実にあるということと、もう一つ、図書館がいままでなかなか返却ポストを置かなかったというのは、実を言うといはずらが多いんです。場合によっては、駅なんか置いておくと、一番悪いのは灰皿代わりにそのまま吸殻をポンと入れてという場合は、燃えてしまう場合があるんです。ですから、燃えないような特に頑丈な、そういうような返却ポス

トを使ったりとかすると、またお金がかかったりとかというふうな形になるので、なかなかできなかったというのは、実はそういうところにあったということなんです。ただ、今回、三次計画の中でやはりいろんなご意見をいただきますので、そういう意見を踏まえながらと考えておりますので、ぜひご意見をいただければと思います。

三浦会長～ちなみに学校便というのは毎日出ているのですか。

豊田部長～それはメール便で、文書交換のやつなんで、それに図書館の書籍が・・・。

三浦会長～載せられるかどうかはまた別ですけれど。メール便というのは、毎日出ているのですか。

石川委員～そうですね。午前便と午後便というのがございますけれど。

三浦会長～それで、108校に。

石川委員～108校ですね。

三浦会長～一日で全部回れる。

石川委員～そうですね。

三浦会長～何台くらいあるのですか。

豊田部長～これは委託に出して、市の教育委員会だけではなくて、事務局間も含めて、委託を出しているのです。そこは多分、午前4台、午後4台くらいで、ある一定の地域を回っていると、学校だけではなくて、事務局も含めて回っていると。

三浦会長～大体4台くらいないとまわれないですね。

石川委員～そうですね、一日がかりですね。

三浦会長～もし回るとなると、それだけの人員も必要だと。こういうことですね。

三浦会長～それでは、③の「電子書籍・デジタルアーカイブについて」はいかがでしょう。デジタルアーカイブに関しては、モバイルとPCと両方と考えていいのですか。

事務局（村田南大沢図書館長）～いろんな手法を考えていくんだらうなということですね。

三浦会長～実質的にはモバイル化の方へ進んでいくんでしょうか。

山崎委員～難しいですね。いろんな方式が乱立している部分もありますし、どの方式にするかというのはありますけれど、どんどん変わってしまうんですね。だから、1年2年でどんどん変わってしまいますので、やはり、かなり汎用的なことをやらないといけないのと、この手のサービスは、ITに詳しい人と詳しくない人の間で非常に差が出てしまうんです。それが非常にまずい。若い人、学生くらいになると自分でどんどんやるわけだけれど

も、そうじゃない人、例えば高齢者なんかこそ、これを使うと文字の拡大機能などがすごく生きてくるんですね。若い人なんか文字の拡大は必要ないでしょう。スマホの細かい字が読めるんだから。私たちは読みにくいから、拡大するとすごく便利なんですけど、そういう便利な人たちが、あまり使えないようになってきているんですね。そういうギャップを図書館でぜひ埋めていただきたいと思うんです。そういう方はアマゾンだとか何かやりませんよ。図書館がやっぱり公共機関だから、そういうマイノリティの高齢者とか、障害者の皆さんに対して、ちゃんと扱えるようにしていただける部分が重要なんじゃないでしょうか。IT が得意な人は、もうほっとけばいいと思うんです。そうじゃない人にやはり手を差し伸べるようなサービスをしていただけるとすごくいいかと、これについては思いますね。商業ベースじゃなくてやるわけですから。

三浦会長～まだ方向性が見えない部分がね、具体的などころではあるんですけど、ただ方向としては、そちらの方向に行くだろうということは間違いないということになると、それに対する情報収集と、議論をしっかりと進めて併せて議論をしていただくということをお願いしておかないといけないだろうと思います。

豊田部長～私どもも、ここで包括外部監査を受けて、外部監査の方からいろんな意見をいただいている中で、図書館の書籍の在り方自体をどうするのかという、いま、160万冊を八王子の図書館は持っているのですが、今後、これが増え続けると今の図書館では置ききれないという物理的な問題が当然あって、一方ではこのデジタルアーカイブみたいな電子書籍化というのは当然必要だろうというふうには考えていくんですけども、ただ、電子書籍というのは物ではないので、書籍としては残らない。それでいいのかというのが、文化財とか、公文書としてどうなのという部分を、これもまた議論をしていただくような話になりますけれど、これについては課題的にはすごく大きな課題があるということだけのご認識していただけたかなと考えております。

三浦会長～国立国会図書館なんかは、両方残すスタンス。

豊田部長～国立国会図書館でさえも、全国からいろんな書籍が集まり過ぎて、整理ができないというのが現状だと思うんですね。持って行ったけれど整理ができないままというのが、今の国会図書館の在り方で、都立図書館も同じような状況で、やはり廃棄をせざるを得ない。八王子の図書館も160万冊でいいのかどうかも含めると、新しい図書館を作ったとしてもそういう部分の中で、現状の中では非常に難しい中で、書庫をどうしていくのかというのは大きな課題の中で残ってくるので、その中で、一つとしては電

子書籍化でスリム化するというのは当然必要だとは思っていますが、それも含めて、またご議論をいただくような形になろうかなと思います。三浦会長～次に進めさせていただきます。(2) 図書館を利用しないで読書を楽しむ市民への応援ということでございますが、それと、(3) 現役世代へのサービス(最も図書館を使っていない世代は現役世代)ということですが、これにつきまして、何か後意見はございますでしょうか。

山崎委員～図書館と書店というのは、同じ本を扱うということで、似たような存在なんですけど、どうも日本では、書店の方が皆さんに、一般の方々にとって親しみやすいという、これは別にそれがいいとか悪いとかということではないんですけど。今回、八王子の図書館の皆さんにご協力いただいて、私どもの大学で、調査研究をさせていただいておりますけれど、それで見ても、書店のイメージの方が図書館よりも割とポジティブというか、いいイメージを持っているケースが多いんですね。ここで申し上げたかったのは、一つ、書店と図書館の関係というのは、どうも書店からすれば、図書館に本を置くから書店で売れなくて困るとか、そういう議論がすごく多くて、著作権がらみの議論でよく出てくるんですけど、私どもの大学で、学生と一緒に研究した時に、図書館のベストリーダー、図書館で一番よく借りられている本というものと、書店で一番売れているベストセラーと、中身を比較するんです。そうすると、一般でいわれているほど重なっていないんですよ。図書館で借りられる本というのは、おおざっぱに申し上げますと、ベストセラーであっても、2年くらい前のベストセラー。今のベストセラーじゃないんですね。むしろ、2年位前。それも、特に知名度の高い著者のものが割と借りられる傾向にある。つまり、何か、何とか賞をとって話題の本とかっていうのはあまり図書館では借りられなくて、もともと定評のある、世間的な定評が定まったような、図書館で借りる傾向が多いと思うので、なにも、図書館で借りられる本と、書店で売れる本とが、真正面からぶつかりあっているわけじゃないと思うんです。だから、図書館と書店が共同して、もっと読書文化というか、それを盛り上げていく余地は十分にあると思うんですね。もっとその辺を研究してやっていただけるとすごくいいかなと思うんです。そういうことになるんじゃないか。読書というものをもっと活発にするっていう意味では、図書館だけじゃなくて、書店とも手を組んで揺るぎある余地は十分にある。何かその辺のことで何を読んだって、中身にまで立ち入った形でぜひ共同作業なり、共同研究をしていただけるとすごくいいなと思います。

三浦会長～ほかにご意見はございますか。出版物ということを考えると、出版物というのは1997年がピークなんですけど、その時期の出版物から見ると、

現在は6割とのこと。4割おちているのだそうです。出る本が、簡単に言うとは少なくなっているそうです。というのが現実の姿なんです。それは、初めから、モバイルだの、デジタルアーカイブ化をしまったりというような本が多くなってきて、情報的なもの、ハウトゥ的なものはデジタルアーカイブ化したものの中からとるという読者の方が多くなって、印刷物になっている本まで買う必要はないというので、それは出版社の方も作っていないというような状況が出てきているんだそうですね。しかも方向性としましては、この傾向はますます強くなるのでしょうかね。

山崎委員～そうすると、書籍の買い手は図書館が買うという、そういうことから起こってくる可能性がありますね。一般の人がもう買わなくなってしまう。例えばの話です。わかりません。電子式書籍が普及して、どんどん値段も下がってくるとなると、出版ということ自体がだれがどうやって支えていくのかという問題が、ここで扱うテーマではないと思いますが、何かそういうふうな感じがします。

三浦会長～現役の、お仕事を携わっている方はここにも大勢いらっしゃるわけですが、レファレンス機能の充実、特に、調べということにつきまして、充実していくべきなんじゃないかというようなことがここに書いてあるわけですが、これについてはご意見はございますでしょうか。ネットで何かを調べるとなると、正しいことも正しくないことも、みんな入ってきてしまうので、やはりそれなりの研究をされた方が書いたものということになると、正式に、本ということになるのでしょうか、そういった意味ではこの部分も増やしていく必要があるのかどうなのか。

谷口委員～小学生でも、調べるということになると、パソコン、インターネットで調べてきてしまうという。それに対しての是非みたいなことが学校の方からはあまりきちっとしたことが教えられない部分があるんですよね。

そういうふうになっていくとよけいに電子化の方に簡単に、楽に、ぱっ、ぱっと調べて、プリントアウトして、まとめるみたいな、簡単にやってしまうという、そんな傾向が今すごく、自分の子を見ていると思うほどですから、調べるなら調べるということも学校教育の中でも、どこかの県で辞書を、付箋をいっぱいつけながら調べているということをやっているようなコメントがあるんですけど、やったら楽しいなというのが子どものころから一回やっていただけのような教育もあるといいのかなと感じています。

三浦会長～子どものころからの教育があって、レファレンスも生きてくるということでしょうね。

山崎委員～図書館のレファレンスというのは、本質的にネット上の情報と違う

んですよね。図書館の方はもっと説明されるといいと思うんですが、例えば「教えて！goo」だとか、「Yahoo!知恵袋」とかというサービスがいっぱいあります。そこにいろんなことが書いてあって、ベストアンサーだとかあって、花丸のしるしかなんかつけてますけれど、往々にして全く間違っているものに花丸がついているんです。それはどういうことかという、もちろん、ネット上で答えている人はわからない。しかも、おそらく、自分のうろ覚えの知識で言ってるケースも随分あると思う。だけど、図書館ではそういうことは絶対しないです。必ず資料的根拠、そのことが書いてある資料を、少なくとも2点は示すという、これは原則ですよ。できればそういうことをもっと図書館が一般の方にアピールすべきじゃないでしょうか。全然違うんです。私は、Yahoo や goo の悪口を言うつもりは、それはそれで、一定の規模はあると思います。だけれど、図書館は全然違うんです。きちんとした、ある程度、裏付けのある信用性の高い情報を提供するのが、図書館のレファレンスサービスなんだということを、客観的に提供するという、きちんとお示しになるべきではないでしょうか。そのことが意外とわかられていないという印象を受けました。

三浦会長～特にこういったものに力を入れるということになると、それに対応する PR ということが、とても重要になる。市民の方に、こういうことができるということがわからないと、市民の方がお見えにならないわけですから、そのところがやはり重要だということを入れておいた方がいいんだらうと思います。ほかにご意見ございますか。

先へ進ませていただきます。(4) 既存施策とのタイアップ、(5) 大学図書館を活用できないか、(6) 地区図書室の分室化を進めるにあたって、地域性を考慮した図書館の配置を考えていく必要がある。の3項目につきまして、何かご意見がございましたらいただきたいと思います。

森岡委員～最後の、地区図書室の項で、先ほど、図書館の配置を考えてということで、図書館の方からご説明がありました。みなみ野は分室化されるということですが、それ以外にも何か展望されているものがあればお教えいただきたいと思います。もし、みなみ野ができれば5館体制になるのでしょうか。

事務局（村田南大沢図書館長）～私どもが地区図書室の分室化の検討を何年も前から進めているわけですが、市内17か所の地区図書室について、受け手側の、ふれあい財団、及び住民協議会の方に説明させていただきまして、やはり運用されている地域の方々が分室化に対して理解をしていただけないと、進められないということで、その中で候補として挙がっているのが、石川の市民センター、それから、由木中央市民センター、横山南

市民センター、それと、みなみ野市民センター、こちらあたりが候補としては上がって検討を進めていたということになります。そういう中で、利用率が一番高いとか、分室化の移行がしやすいというふうな条件を考えて、今回はみなみ野の分室化をするという計画になりましたけれども地域的には石川の方が手薄なことも確かですし、また、横山南とかのことも今後考えていく必要があるのかなと思っています。

三浦会長～現状の段階では新規の図書館云々ということにはなっていないという理解でよろしいわけですね。

それでは、資料の②でございますが、「第三次読書のまち八王子推進計画 子どもの読書活動推進計画部会における課題」ということでございますが、これにつきまして、2. 課題整理を行った項目の中で、地域・家庭での子ども読書活動推進について、これにつきましてはいかがでしょうか。

地区図書室での児童サービスの充実というのは具体的にどういうことを。

事務局（村田南大沢図書館長）～実際の地区図書室では、住民の方たちが読み聞かせとか児童書を充実させようといった活動もしていただいているのです。そういったところを図書館としても支援を進めていくといったことを考えています。

豊田委員～地区図書館、前から比べたら、充実していますね。児童本だとか、紙芝居だとか、そういうのも、だんだん揃ってきて、前はなかったんですけど、すごくいいことだと思う。うちの孫なんかも行くと、紙芝居をみたり、児童本だとか、ああいうのも少し充実していくといいんじゃないかなと思います。

三浦会長～地区図書室を管理している財団の議論の中で、もうちょっと、あまり地区図書室についての議論は財団の理事会の中でも、問いただしてやったという記憶が私もあまりないんですね。何回か質問はしたことがあるんですが、その部分について、地区図書室をどうするんだというような議論を財団で、理事会の中でやった記憶があまりないんです。多分同じ感想なんだろうと思うんですね。そういうことも、しっかり財団の方でもやってくれということも一度言わなくてはいけないのかなというふうに、理事の気持ちではつらいところもあるんですが、どちらにしても管理するのは財団ですから、図書館との協議等々をしっかりとやらしてもらわないといけないのかなという気はするんですが。

事務局（村田南大沢図書館長）～たまたま私も前職がふれあい財団を監督するセクションにいたものですから、ふれあい財団は市民センターの管理というところと、地域住民との協働という中で、町会さん等との連携、協働という部

分がどうしても強く出て、そういう中で地区図書って本に関してはちょっと町会さんの中でも位置づけが特別なんですね。町会活動としての地区図書室運営というよりも、本が好きな方たちのボランティアが集まってきて、そこでやっているといった認識が強いんですね。ですから、ふれあい財団がたえず調整している住民協議会さんの認識自体も地区図書室に薄いといったこともあるかと思います。そういうことを我々ももっとPRしていかなくてはいけないのだろうなと。

ふれあい財団に対しても、今回、作業部会にふれあい財団の人が出ておりますし、ふれあい財団の方もいらっしゃいますので、そういうことを言っていかななくてはいけないなと思います。

三浦会長～理事の立場でもそう思うということでご了解いただければと思います。

学校図書館の充実と読書活動の推進という項目について、こちらにおまとめをいただいておりますが、これにつきましてはいかがでしょうか。

中村委員～学校図書館に関しては、司書教諭というのがおりますけれど、なかなか学校の現場では司書教諭は司書教諭としてあまり仕事ができない。普通の先生として仕事をしてしまっているの、なかなか司書としての仕事をできないので、それでもってこう、図書館がさっぱりこう、まして中学校なんかになると生徒の図書室に行かない傾向も強くなってくるので、これは図書館に言うことではないかもしれない。もっと上の教育委員会にいうことなんでしょうけれど、司書教諭に、ちゃんと司書教諭の仕事をさせるくらいの人員の割り当てができないのかとそうおもいますね。

三浦会長～ほかにございますか。特にこの中で、図書館サポートセンターの問題というのがあるんだろうと、この中に含まれているんだろうと思いますが、その後の進展というのはいったいどうなんでしょうか。教育センターの方に作ってあるわけですが、それをその後どういう形で活用をしている、あるいは広げていっているということはあるんでしょうか。学校教育部の方はどうですか。

石川委員～その後の進展ということでのお話ですと、学校図書館の活用協議会というものを設けまして、学校図書館の今後の運営ですとか、図書館との連携というところについては、そこをもとにしながら、検討しているところなんですけれど、また、下部組織としての研究会の方に、私、所属しているんですけど、議論を行っているというような段階です。

三浦会長～せっかく、初期の会議の時に提案をさせていただいて、それが具体的に動き出したというところまでは我々も認識をしておるんですが、動き出したものを発展させないと意味がないだろうと、どういうふうに発展

をさせるのか。最初の時に図式化をしてお示しもしてありますので、そういったものをご覧いただいて、修正するものがあれば修正をしていただいて、前へ進めていっていただきたいと思います。よろしく申し上げます。

森岡委員～今おっしゃっていた活用協議会と、研究会の話が出ましたが、これは八王子市として設置されて、研究をされているものなのですか。それとも任意のものというか。

三浦会長～教育委員会で設置をしているものですよね。

石川委員～はい。

豊田部長～これは学校教育部長が主になって、私が副部長という形で位置づけておまして、学校の図書館を今後どう展開していくのかということを議論しているところでございます。先ほど言われたサポート、読書の嘱託員さん、当初4人でハード部分を、ラベルを張ったりするのを4人でやって、これも全校を行けてなくて、26年度ですべて終わるのかな。新たに図書館サポーターとして8名ばかり学校の研究主事さんなんかと、やはり2名で、それが17校かなんかまわっているんですけどそれも何年かかからざるを得ない。その後の展開については予算の部分もあって、いっぺんにできればよくて、最終的には司書教諭を置いてもらうのが一番いいんでしょうけれど、教育委員会の考え方は司書教諭より、学校長が、図書館司書を持っている司書教諭の先生に、もう少し図書館を充実させてほしいというのが今の議会側での、多分、立場だと思うんですね。図書館司書を置いてほしいという請願も出されて、それについては、議会側が、予算的な財源を裏付けながら進めていきたいみたいな、そんなようなやり方でやっていますので、今後、来年度はもう少し予算も何人かつけて、図書館サポーターみたいなものを充実させていきたいというのが、現状です。今後はどう展開するのかというのはその協議会の中でも学校教育部長あたりが中心になって、今後の展開を考えていきたいということです。

三浦会長～学校図書館へ司書を置くというのは、司書教諭、つまり、教員でないといけないんでしょうか。司書をお持ちの方で、例えば、嘱託職員みたいな形でも。

豊田部長～横浜あたりは臨時職員でというんですけども、本当は授業に関わるとなると先生の資格を持った人の方が、理想は理想なんですね。授業展開をしていくわけですから。ただ、司書を持った人がいても、それはレファレンス的なあれで、それをどう授業に繋げていくか、学力向上につなげていくかとなると、本来的には、ご要望のあった司書教諭が、あるべき姿なんだろうけれども、先生も1人配置して107校になりますので、そうするとものすごく莫大なそれはどう見てもつかないので、今現在はそう

いう形で運用しているということです。

三浦会長～そこのところの整理をしっかりとさせていただいて前へ進めていただくということが現状の段階なんではないでしょうか。

鈴木委員～現在配置されている司書教諭そのものは司書としての仕事ができる時間は、一週間でほんの2時間程度しかないのです、何ができるかと言ったら、ほとんどできないとっていい状況なので、できれば本当に、配架そのものとか、図書の修理とか、そういったものを含めて、週一日でも、常駐していただける方が、学校にあると、こんな本をそろえてほしいんだけどといった教員からの依頼も、しやすくなりますし、子どもたちが、図書館の方に足を運ぶ機会の増加にもつながるのかなというのは思いますので、予算との関係があるので、できるだけ、そういった方向に行ってもらえたらいいなぐらいのところしかいえませんけれど。

三浦会長～、みんな、どのポジションもつらいところがあるだろうと思うんですが、ただ、どこかできちっと整理をしてさせていただいて、進める部分は進めていただくという動きをする場を作ってさせていただいて進めていただきたいと思います。この場も意見を出せる場の一つですから、ぜひ、先生方、あるいはお父さんお母さんも含めて、ご意見がありましたら、いただきたいと思います。

山崎委員～鈴木委員がお話された通りの形で、学校図書館の充実を図っているという話をよく聞きます。司書教諭というのは、方向付けをしたり、マネジメント部分に携わって、要するに、実際に本を選んだり、並べたり、カードを書いたり、入力したりというようなことは、司書の資格を持った別の職員が来て、その人が臨時であれ、ほかのどのような業務形態かは別にして、そういう人が手足になって、二人で学校図書館を充実させていくという話は、非常に実務的な話だと思います。もし可能なら、素晴らしいなと思いました。

三浦会長～先に進めさせていただきます。中高生の読書活動推進と、その他の内容につきまして、ご意見、ご質問ございますか。

現状では読書感想文、感想画コンクールは小学生、中学生に限られているんですね。これが高校にまで広げているかということ。高校の場合は都立と、あるいは私立、で、八王子市立というのは、今、ないですね。なかなか、そこには、中高の高の部分には手を突っ込みにくいというのは現実論としてあるんですが。

豊田委員～中高になっちゃうとどうしてもクラブ活動の方に行っちゃうんですね。図書館に目を向けるよりはクラブ活動の方に行き、活動する。それを、図書館の方に目を向けるというのなかなか大変だろうと思いますけ

れど、まあ、なんとかやっていかなければいけないし。そういう意味では、小学校の方が、図書館には目を向けてますね。

谷口委員～ここにも、図書館は中高生にとっては勉強する場所という認識が強く、勉強スペース拡充の意見もあるということで、うちの子も今度、高校を卒業するんですけど、都内の方に通っていたものですから、帰りに、駅の近辺で、ちょっと勉強してきたいなという時があっても、ないですよ、だからそういう部分も、少しあると、またそこから、ちょっと本を見てみようとか、そういうことにもつながるのではないかなということをも自分の子を通して、感じていたところがあったものですから、そういうスペース的なところから入っていただけると、また、いいなと思いますので。

三浦会長～参考書や問題集は、基本的には図書館の方では今までそろえてなかったんですよ。ここでは、検討をしたらどうかというのがここに入っているんですが。

谷口委員～就活アドバイスというのではないんですけど、そんな、コーナーではないですけど、そういう本を、例えば、大学進学アドバイスとか、それに関連する本とか、逆に言ったら、就活に関するこういう、もうちょっと、子どもが何になりたい、小学生くらいの子が、将来何になりたいかというのではなく、もうちょっとリアルな、そういった、例えば事業の本だったりとか、そういうもののコーナーとかっていうのがあってもいいかなと思います。

三浦会長～中高校生が、図書館へ来たら、こういうことができるよということは、しっかりとPRをしてやらないといけないんだろう。いま何ができるんですかということをも明確に図書館サイドで固めて、それを中高校生に、親御さんも含めてということになろうと思いますが、しっかりとPRしてやる方法を、作らなくてはならないんだろう。その辺でご意見がありましたらいただければと思うんですが。

谷口委員～もっと言えば、サロンとまでは行かなくても、図書館に行くと、なんかこう、ここにいたいなというような、そういう環境ですかね。そういうのがほしいなと。ただ本を借りてきて、それで、分室化のところ、市民センターなんか本当にさびしい感じで、そういうものもほしいなと思いますし、私も近くの市民センターで本を借りたこともあるんですけど、もうちょっと魅力のある本がほしいなとか、そういう部分もあったりして。

三浦会長～非常に難しいところなんですけどね、特に受験勉強など集中的に勉強の方へ寄っている時期ですから、なかなか難しいところは難しいんですけど、ただ、単に逆に言うと図書館が勉強する場というのですかね、一方では、個人で勉強する場でもいいの、という、そういうものが図書館に求め

られる形のままでいいのですかというのが一方ではあるのだと思います。
その辺の在り方というのはどうなのでしょう。

豊田委員～うちに帰ってしまうと、兄弟とかなんかうるさくて、できないから
図書館へ行って勉強したいなんていう子もいると思うんですよ。そうすると、
図書館には、学習室というのもある。どこにでもありますけれど。そういうのを
大いに活用。また、みんな自分でもってアンダーラインかなんか引きますから、
これは図書館から借りるといって、ある程度はそれもいいんですけど、みんな、
自分で覚えやすいようにアンダーラインを引いたり、書き込んだりとか、
そういう難しい点もありますけれどね。

山崎委員～この、中高生読書活動推進の、1行目に、中高生向けの行事のビブリオバトルと書いてあるんですけど、自分が読んできた本を、5分ぐらいで
宣伝するんですね。書評合戦とってますよね。それを何人かがやって、それを
一般に聞いている人が、どの本が一番読みたくなったかを投票するんですね。
その、得票した数の一番多い人が優勝という、私のゼミでもやっている
んですけど、この前やりましたら、10人ぐらいでやったんですけど、
いろんな本を宣伝して、なんと、一番トップに立ったのは、スポーツ推薦で
入ってきた、ずっと運動部にいる子なんですよ。だから、そういう子でも、
本を読んで、きちんとものを考えて、そういう子もいるということで、
読書というのはとても多様性があるいいなと思って。勉強の偏差値だけで
いったら、もっと高い人もいるんでしょうけれど、そういうことだけじゃなく
て、図れる能力って、読書とかだと出るのかなと思って私の方も勉強させ
られました。必ずしも問題を解くのが早いとか、そういうことではないけれど
人に自分の感動を訴えることができるということですね。それも大事な能力
かなと思ったので、こういうことを図書館でもいろいろやっていただく
といいのかなと。単に、青白いインテリが行ってればいいということじゃ
ないような気がするんですけどね。そういうイメージがどうもあって、
図書館て固いところだというイメージが日本ではものすごく強いみたい
ですね。そうじゃないと思います。

三浦会長～ほかにご意見はございますでしょうか。その他の中に、特別に支援
を必要とする児童・生徒への読書支援と、これが非常に重要だろうと思
うんですが、具体的にどのようにやるのかということになると、難しい。
これは専門的に研究しないと軽々に発言をするということではできない
だろうと思いますが、これもやはり、そういった特別に支援を必要とする
児童や生徒に対して、図書館が、こういうことができるようになっていま
すよというのが、特にこういう児童・生徒というのは、ある限られた人数
ということになりますが、直接、ダイレクトにですね、子どもたちに、ある

いはその子どもたちの面倒を見ていらっしゃる親御さんあるいは教員の方たちに、できることを伝えてあげる方法というのがあるのもいいなと思うんですね。逆に、そういう機会をとらえて先方からこういうことをしていただけますかという要望も聞けるチャンスがあってくると、なお結構だろうと思うんですね。

本日いただきましたご意見を、再度、検討していただいて、作業部会で検討した内容を生涯学習審議会へ意見として提出をさせていただき、意見の内容について事務局で取りまとめをしていただく。そんな手順で行きたいというふうに思いますが、この会としても、きちんとした形での計画をまとめなければいけないということがございますので、次回以降も皆さん方から、掘り下げて議論をしていただければと思っておりますので、よろしく願います。以上で本日の議題に関しては終了させていただきます。それでは、次回の日程でございますが、事務局からお願いいたします。

事務局（村田南大沢図書館長）～次回というか、2月、3月は月に1回のペースで会議をお願いしたいと思っております。今日の、議論いただいた内容を踏まえまして、来週、生涯学習審議会がありますので、こちらの会議ではこんなふうな意見が出ているといったところを出したいと思っております。それは、ただ、途中経過なので、今お話ししていただいたとおり、来月、再来月と議論を進めていただいたものをまとめまして、生涯学習審議会の方へも絶えず送り込んでいきたいというふうに思っておりますので、できましたら来月、日程をとって調整していただければと思っております。2月の18、19日あたりでよろしければ。

（日程の調整が行われた）

三浦会長～それでは、2月18日火曜日、次回の読書のまち八王子推進連絡会議を開催させていただきます。よろしく願いをいたします。

三浦会長～以上で本日の会議を終了いたします。長時間のご審議をありがとうございました。

以上